



# 茶園に未曾有の被害 3・30凍霜害

問い合わせ お茶振興室 原木 ☎ (53) 2621 J Aハイナン営農経済部営農企画課 ☎ (22) 9539

## インタビュー 被害の大きさに 青ざめました

凍霜害が発生する気温になることは前日の気象予報で予測されていましたが、実際に調査すると、予想より被害が大きいことが分かりました。

2日後の再調査では、赤色に変色した芽が雨に濡れて、ぐちゃぐちゃになった茶園を見て、青ざめてしまいました。

大きな被害になりましたが、現在では来年の生産について考えています。生産者に対しては、被害のダメージを回復させること、枝のばらつきを整えることを中心に指導しています。被害を受けた茶園も回復の傾向にあります。樹勢は約1年で回復するので、来年への影響はほぼないと思われまます。

今後は、凍霜害対策の技術指導を引き続き行うとともに、今回防霜ファンで被害程度が軽減されたので、必要なときに作動するように点検、見回りなどを呼びかけていきます。



J Aハイナン 藤田健一郎さん



大阪でキャンペーンを実施。



対策会議では生産方針について検討。



市議会が茶園を視察。

## 関連機関の動き

- 3/30 茶凍霜害の発生  
水点下の冷え込みにより、市内ほぼ全域で凍霜害が発生
- 3/31 被害状況の調査を実施  
市は地頭方・須々木・鬼女新田地区を対象に調査を実施
- 4/5 2回目の被害状況の調査を実施  
市は布引原・勝間田・坂部、片浜地区を対象に調査を実施
- 4/6 県が相談窓口を設置  
県内7カ所の農林事務所は茶樹の技術対策、経営の安定対策などを相談できる窓口を開設
- 4/6 県茶業研究センターにて情報収集  
市は県農林業局および茶業研究センターに出向き、県の対応や茶栽培などに関する情報を収集
- 4/11 県に支援策要望  
市長が茶の凍霜害について、早急な支援策実施を県に要望
- 4/12 市議会が茶園を視察  
総務建設委員会が鬼女新田・相良・勝間田・坂部地区の被害状況を確認
- 4/15 市農業委員会開催  
市が農業委員会へ凍霜害の状況などについて説明。J Aハイナンから生産者に説明と指導
- 4/16 市議会が要望書提出  
市長へ詳細な被害状況の調査や早急な対応を求める要望書提出
- 4/22 県が調査結果を報道  
状況把握のために実施した調査結果を発表
- 4/23 J Aハイナン茶業振興委員会、荒茶共販委員会が支援要請提出  
両委員会が市長へ利子補給支援や財政的支援などの支援要請の提出
- 4/26 市長ら市内茶工場を激励訪問  
市内茶工場約220カ所を激励訪問(引き続き4月30日に実施)
- 4/26 市長が国に要望  
県内の国会議員に所得補償、災害補償などの必要性を陳情
- 5/15 大阪新茶キャンペーン  
市が大阪市にて静岡牧之原茶の緊急販売促進キャンペーン実施
- 6/4 凍霜害対策資金融資申込状況  
相談者は、個人と法人を合わせて163件。書類が提出された申込件数は93件で、そのうち融資が実行されたのは73件(8月31日現在)

サクラが咲き始めた3月30日未明、季節はずれの寒波が県内、そして本市を襲いました。

この朝、最低気温マイナス1・3度(気象庁・菊川牧之原観測点)を記録し、市内全域で凍霜害が発生。前日まで美しく萌えていた一番茶新芽の大部分が凍った後、枯れてしまったのです。

## 広範囲で深刻な被害

被害面積は市内全作付け面積の8割に上り、そのうち2割強では収穫が全くできない状況となりました。特に芽吹き時期が早い品種の「つゆひかり」や「さえみどり」などは被害が大きく、販売できる収穫量に足りませんでした。今回の生葉推定被害総額は約11億円。生葉のみならず荒茶の生産量および売上高も前年対比で約1割減です。本市は、昭和54年と昭和61年にも大規模な凍霜害に見舞われていました。しかし、今回の被害面積と被害額は、当時を大きく上回る過去最大の被害。近年不況に陥っていた茶業にとって大きな痛手となりました。

## 経済的支援策

年間で最も利益が見込まれる一番茶の生産が厳しい状況になったことで、多くの茶生産者が経済的な打撃を受けました。そのため、茶園維持の経費のほか、被害を受けた茶園を回復させるための費用や生活資金を確保することが困難になりました。

このような状況を受けて、市とJ Aハイナンは対策協議を重ね、茶生産者への凍霜害対策資金融資が決定しました。これはJ Aハイナンが被害を受けた茶生産者(ほか農作物生産者を含む)を対象に個人500万円、団体5000万円を限度として資金融資するというもの。この基準金利1・5割のうち0・75割はJ Aハイナンが負担します。併せて、市が残り0・75割の利子を負担することとし、貸付金の実質無利子化が図られました。この利子補給にかかる費用は一般会計からの支出となります。

そのほかの支援策として、J Aハイナンでは、茶生産者の負担軽減を図るため、J Aハイナンで購入した22年度分の肥料や農業の代金について

割引を行っています。

市では、緊急支援対策として、本市出身者が創業した大阪市の茶卸販売店の協力の下、大阪市内の大手百貨店で新茶キャンペーンを実施。非常に盛況で、大勢の人が静岡牧之原茶を購入してくれました。また、東名高速道路路牧之原サービスエリアでも、静岡牧之原茶の消費拡大と販売促進を目的としたPRキャンペーンを実施しました。

## 今後の対策

被害を受けた茶園のうち、多くは4月以降の天候回復と適度な降雨により芽の生育が良くなり、前年の7割から85割の生産量となりました。品質も例年と変わりなく、全国茶品評会では優秀な成績を収めました。

新芽の回復には、天候のほか防霜ファンが効果を発揮したこと、今後、新規設置や既存施設の更新について国庫補助を受けられるよう、市は県を通じて国に求めているところ。同時に、県や農協などの指導機関や茶業関係者との連携を強化し、セーフティネットの構築を図るなど茶業振興に取り組みしていきます。

## 本市の被害概要

	全作付け面積	2,610㌥
被害面積	全作付け面積に占める被害面積の割合	84%
	総被害面積	2,204㌥
被害額	生葉推定減収量	3,022㌥
	生葉推定被害金額	11億36,272,000円

## 用語

とうそうがい【凍霜害】  
作物が低温によって受ける被害のうち、凍害と霜害をあわせていう

なまは【生葉】  
茶園から摘み採ったばかりの茶葉

あらちゃ【荒茶】  
生葉を製茶工場で蒸し、もみながら乾燥してできるもの

一般には、この荒茶を再製工場で「仕上げ加工」して商品となる